

# 高井伸夫弁護士

## 愚考 閑話録



「経済」という言葉は、中国の古典にある「経世済民」(世を経「おさ」め、民の苦しみを済「すく」う)に由来するといは、よく知られている。然るに現実はどうか？ 資本主義経済の下、過度な自由競争によって生じた如何ともし難い格差問題が、世界に蔓延している。格差

### 最終回 資本主義からの脱皮の第一歩(下)

を緩和するには、国民全体が平等・博愛・共助の精神によって助け合うしかないであり、その一例が、前回述べたベーシックインカム等の導入である。平等・博愛・共助を体現する条文を身近な法律でみると、たとえば民法90条(公序良俗)、労働契約法5条(使用者の労働者に対する安全配慮義務)、障害者雇

用促進法第2章の2(障害者に対する雇用の分野における差別の禁止、使用者の配慮義務等)、同法指針等々が挙げられる。日本を含む先進諸国の経済成

長は鈍化し、拡  
大路線を進めら  
れなくなってい  
る現在、日本社  
会は成長至上主  
義を断念し、成  
熟・定常化の方  
向に舵を切らざるを得ない。そ  
して、フロンティアがなくな  
り、成長が限界に達したとなれ  
ば、垂直指向ではなくあらゆる

## 倫理・道徳を大切に

### 公正な企業活動実施へ

物事を水平指向で考えなければならぬのである。水平指向の社会では、量ではなく質の進化が追求され、機会の平等の拡充、そして公明・公平・公正が特に重視される。具体的には、  
①貧富の差を小さくするための

政策の実施、②男性優位の社会から女性活躍の社会へ、③水・食料等の生きるための必需品の質を平均化・充実化し、国民に公平に行き渡るための施策の実施等である。  
日本資本主義の父といわれる  
渋沢栄一(1840-1931)  
は、『論語と算盤』を著し、「富  
みながら、かつ仁義を行い得る  
例はたくさんにある」とした。

物事を水平指向で考えなければならぬのである。水平指向の社会では、量ではなく質の進化が追求され、機会の平等の拡充、そして公明・公平・公正が特に重視される。具体的には、  
①貧富の差を小さくするための

になる。企業が使命を果たし永続するために必要とされるのは、論語に代表される倫理観・道徳観であり、法令遵守のみならず倫理・道徳に適った運営をして企業活動の公明・公平・公正を実現しなければならぬ。  
今年、6月にEU離脱を是とする英国における国民投票結果、11月に米国大統領選挙におけるトランプ氏の当選という世

りも「見えない世界」に迫る努力こそが重要であるという教訓である。英国と米国での事態を予想できなかった世界中のジャーナリズムは、見える世界を表面的に論じるだけで満足していたことになる。見えない世界が

界中が驚く事象が起った。ここから導き出されるのは、物事の本質をより追究するには、見える世界より「見えない世界」に迫る新しい経済体制を世界に発信すべきである。それには、さらに強力な思いやりのある社会主義化を進めていかなければならぬ。それでこそ、真の意味の経世済民の実現につながるのである。